



パークガイド NO.15 2024 年 2 月発行

みやざき公園協会では、毎年「パークガイド」を発行しています。
HP にてバックナンバーを掲載しています。

編集・発行

一般財団法人 みやざき公園協会

〒880-0014 宮崎市鶴島2丁目10番25号

TEL 0985-25-7410 FAX 0985-25-7390

URL <https://www.mppf.or.jp> Email park@mppf.or.jp



PARK GUIDE Vol.15

Miyazaki
Parks
Association

このパークガイドは、一般財団法人みやざき公園協会が
指定管理者として管理している公園の情報をお届けする冊子です。

Contents 目次

意外と知らない？公園の一面をのぞいてみよう



P3

01

たくさんの生き物が暮らすトンボ池
萩の台公園



P7

02

「自然 de あわき」始動！
県立阿波岐原森林公園



P9

03

植物園と共に歴史を刻む樹木
宮交ボタニックガーデン青島

取材日：2023年 5月～11月

意外と知らない？公園の一面をのぞいてみよう

私たちみやざき公園協会は県や市に代わり、

15 の公園や施設を管理しています。

たくさんの生き物がある公園や、綺麗な花が咲き誇る公園。

特徴はさまざまですが、どの公園も自然にあふれています。

そんな公園のことを、皆さんはどのくらい知っていますか？

いつも何気なく見ている景色の中に、

実は知らないことがたくさんあるはず！

今回はそんな公園の一面を、ちょっぴりご紹介します！



萩の台公園トンボ池
シュレーゲルアオガエル

01 たくさんの生き物が暮らすトンボ池 萩の台公園



山に囲まれた萩の台公園は、広大な芝生の広がる美しい公園です。遊具広場やスポーツ施設も多く、大人から子どもまで、たくさんの人が訪れます。

しかし、萩の台公園にいるのは遊びに来る人やスタッフだけではなく、トンボやチョウ、ドジョウやゲンゴロウなど、たくさんの生き物たちが暮らしています。彼らがいるのはビオトープであるトンボ池。そこには他の公園ではなかなか見られない、ちょっと珍しい生き物も暮らしています。



トンボ池 カエルの卵

トンボ池とビオトープ

今でこそ緑あふれる萩の台公園ですが、もとはごみ埋立処分場でした。平成18年4月に公園として生まれ変わり、その時に自然にできた水溜まりを整備したものがトンボ池です。

ビオトープとは「生き物（Bio）」と「生息する場所（Top）」という意味の造語で、一般的には「いろいろな生き物が生活する場所」を指します。都市化が進み、身近に見られた生き物が少なくなっている今、私たちは「ビオトープ」を広げていこうと考えています。

水の中で暮らす生き物たち

トンボ池には水の深い場所と浅い場所があります。水深によって、住んでいる生き物も少しずつ違ってきます。



ヤゴ

秋に産まれたヤゴは、池の中で冬を越しています



オタマジャクシ



シマゲンゴロウ



タイコウチ

萩の台公園所長イチオシ！
トンボ池のハンター

草地で暮らす生き物たち

宮崎県絶滅危惧種のトンボも暮らしています。また、草を食べるバッタやイナゴ、蜜を吸うチョウなどもいます。



マイコアカネ

宮崎県絶滅危惧Ⅱ類



ハネナガイナゴ



アオイトトンボ



クロアゲハ

ネム/キが咲くとやってきます



夏のガマの穂



秋のガマの穂



秋のガマの穂



ガマの綿毛

トンボ池の面白い植物

夏から秋の終わりにかけて、ソーセージのような形をした穂をつけるガマが見られます。夏の穂は硬いですが、晩秋になると柔らかくなり、力を加えると爆発したように綿毛を飛ばします。

トンボ池はどうやって保たれているの？

自然がいっぱい、生き物がいっぱいなトンボ池。
しかし、自然に任せたまでは、この多様性を維持することができません。
トンボ池でたくさんの生き物が暮らしていくには、人の手による管理が必要です。
現在のトンボ池がどうやって維持されているのか紹介します！



4月～11月の間、
毎月1回行います。

草刈り



生き物によって住みやすい草丈は違います。草丈が低い場所を好む生き物もありますが、鳥などに食べられないように隠れ家が必要とする生き物もたくさんいます。そこでトンボ池周辺の草刈りは、あえて草を刈らない場所をつくることで、生物多様性を維持しています。

ガマ刈り



胴付き長靴を着て、
機械や手作業で
刈り取ります。

ガマは放っておくとトンボ池一面を覆って
しまいます。水面がガマで覆われてしまうと、
産卵ができなくなるトンボがいます。



藻の除去



夏になると藻が繁茂します。増えすぎた藻が
枯れて池底に堆積すると、水中の酸素を不足
させるおそれがあります。

水底清掃

トンボ池の底にはヘドロが堆積し、その
ままにしておくと水深が浅くなっていき
ます。水深が浅いと、夏の日照りや冬の
乾燥で陸化、草地化してしまい、水生
生物がすみかを失う可能性があります。

作業は、池に住む
生き物たちをバケツに避難させる
など、慎重に行っています。



トンボ池についてもっと知りたい！

赤阪所長へ インタビュー

Q. トンボ池管理で大変なことは？

A. 水の量が変わること。トンボ池の水は、実は全て雨水です。水が干上がってしまうように様々な対策を行っています。

Q. 新しい取り組みはありますか？

A. 多様性を高め、たくさんのチョウを観察できるよう、フジウツギやカンキツ類を増やします。花の蜜を吸いにチョウが飛び回り、葉にアオムシが集まる、そんな風景を目指しています。

Q. トンボ池のアピールポイントは？

A. 季節の変化が楽しめることです。春にはカエルの大合唱、夏にはたくさんのトンボが見られます。秋になると赤や黄色のトンボが増え、ガマも見られます。冬が終わりにさしかかるころにはたくさんのオタマジャクシが泳いでいます。

たくさんの生き物たちがくらすトンボ池。管理はとても大変ですが、さまざまな生き物が共生できる場所は、都市化が進む現在で失ってはならないものです。私たちは、生き物たちが安心してくらすトンボ池をこれからも守っていきます。

萩の台公園では、トンボ池を中心とした学習や管理活動を定期的に行うボランティア活動も
行っています。
興味のある方はぜひお気軽にお問い合わせください！

萩の台公園（管理事務所）
〒880-0125 宮崎県大分県宇佐市増迫 7150
TEL 0985-30-2163 FAX 0985-39-5940
E-mail haginodai@mppf.or.jp
URL <https://www.mppf.or.jp/haginodai/>

02「自然 de あわき」始動！ 県立阿波岐原森林公園



ファミリーガーデン

日向灘に面する一ツ葉海岸に位置し、大部分が松林で覆われている県立阿波岐原森林公園。その管理事務所の周りには、3つのエリアで構成された「ファミリーガーデン」が存在しています。

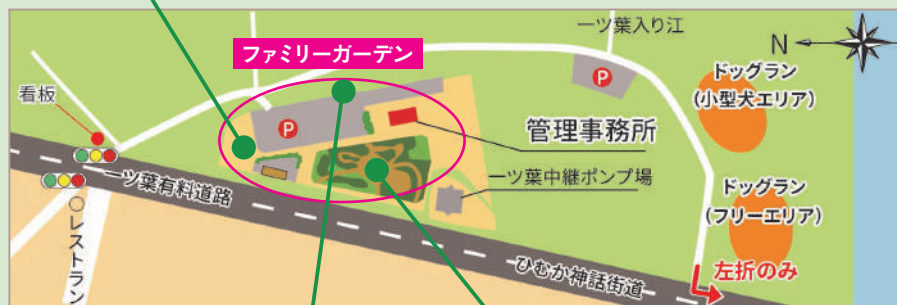


原っぱ



柳のトンネル
イメージ写真

芝地が広がるエリアです。ここでは現在、子どもが走り抜ける樹木のトンネル、「柳のトンネル」を作成中です。



冒険広場

ネイチャーゲームといったイベントでも使われる、木漏れ日がさす広場です。



キッチンガーデン

ここでは、公園ボランティアの方がスタッフと一緒に野菜を作っています。

「自然 de あわき」のはじまり

ファミリーガーデンは自然豊かなエリアです。自然に触れられる空間が減ってきている現代にこのような場所は欠かせません。公園をさまざまな人に利用してほしい、自然の中で子どもたちが主体的に遊ぶ場所を作りたい…。そんなスタッフたちの想いから、子どもたちが遊びたくなるような魅力的な公園を目指し動き始めたプロジェクト、それが「自然 de あわき」です！

「自然 de あわき」の第一歩

「自然 de あわき」は令和4年度から5年間かけて、南九州大学、宮崎県建築士会、地元住民などたくさんの方と協力しながら作り上げていくプロジェクト。令和4年度に打合せや調査、子どもたちへのアンケートを行い、今年度は子どもの遊び場「冒険広場」をメインにプロジェクトを進めています。

子どもたちからは「ツリーデッキがあったらいいな」という意見がとても多かったため、私たちは子どもたちの意見を取り入れたツリーデッキをデザインし、作っていかうと考えました。

どんなツリーデッキがあったら楽しいだろう…。子どもたちがそれを考えるためには冒険広場がどんな場所か知る必要があります。そこで今回は五感を使って自然を体験するネイチャーゲームを通じて、冒険広場の魅力を見つけてもらうことに。



ゲームの後は、一人一人ツリーデッキのデザインを考えてみました！来年度からはこれらを参考にツリーデッキを製作していきます。どんなツリーデッキができあがるのか…完成が楽しみです！



03 植物園と共に歴史を刻む樹木

宮交ボタニックガーデン青島（県立青島亜熱帯植物園）



宮交ボタニックガーデン青島は昭和40年4月に開設され、同年の10月には国内で初となる、シンガポール植物園との姉妹園締結を行いました。開設から2年後となる昭和42年6月に開園し、以来亜熱帯植物の種子や苗木を導入し、宮崎の気候風土に根付かせる試験、研究を行ってきました。平成28年3月にはリニューアルオープンを果たし、令和9年には開園60周年を迎えます。そんな歴史ある植物園には、同じように歴史ある樹木がたくさんあります。その中でも、暖かい宮崎ならではの樹木たちを4種類紹介します！

宮交ボタニックガーデン青島 園内 MAP



ブーゲンビリア

Bougainvillea



ジャカランダ

Jacaranda



イペー

Ipe



パラボラチョ

Palo borracho



ブーゲンマウンテン（ロータリー花壇）

ブーゲンビリア Bougainvillea



ブーゲンビリアは南アメリカを原産地とする半ツル性低木。開花期間が長く、色鮮やかな花を咲かせることから、ハワイやシンガポールといった赤道直下の地域では、庭木や修景木として多く利用されています。

宮崎でも空港の名前にも使われるほど馴染み深い植物であるブーゲンビリア。春や秋になると県内のあちこちで濃いピンク色を目にすることができます。

植物園のブーゲンビリア

最初にブーゲンビリアが植物園にもたらされたのは、今から半世紀前の昭和46年。シンガポール植物園から友好の印として、32品種のブーゲンビリアが贈られました。それ以降も交流を重ね、平成19年に17品種、平成22年に31品種、平成27年に5品種、平成29年に8品種のブーゲンビリアが挿枝で寄贈されています。

現在、大温室で花を咲かせているブーゲンビリアは15品種あり、そのうち5品種はシンガポール植物園から導入された品種です。白と桃色が不規則に入るアイスクリーム、黄色の花を咲かせるジュベリー、八重咲きのダブルピンク、秋の開花がより華やかなミセスエバ、淡い桃色のライトピンク。どれも美しいブーゲンビリアで、毎年たくさんの人を楽しませています。



B.Atskrim



B.Jubilee

ブーゲンビリアは様々な色や形があり、品種を区別することが大変難しいとされています。

シンガポール植物園から多くの品種が贈られたことをきっかけに、私たちは宮崎の気候に合うブーゲンビリアを選定しています。平成26年には118品種について記載したブーゲンビリアの図鑑を発行しました。ブーゲンビリアについては今後も研究を重ね、植物園の春と秋を美しく彩り続けます。



B.Light Pink



B.Mrs. Eva



B.Double Pink

ジャカランダ Jacaranda

ジャカランダは中南米原産の落葉性高木で、春に落葉し、若葉と同時に流れる雲のような青紫色の花を咲かせます(植物園では5月下旬から6月)。和名「紫雲木(シウンボク)」の名はこれに由来しています。また、植物園の大温室でも見られるカエンボク、ホウオウボクと並び世界三大花木のひとつとされているほど、最高峰の美しさを誇ります。

ジャカランダは植物園のほか、宮崎市内にも大木がいくつかあり、日南市の南郷ではジャカランダの群生林を見ることができます。



植物園のジャカランダ

植物園の熱帯果樹温室横には、今年で樹齢59年になるジャカランダの大木が植えられています。このジャカランダは、昭和39年に南米の宮崎県人会によって持ち込まれた種から育てられ、日本で最初に屋外へ植栽されたと言われています。また、植物園に植え付けられたのと同時期に日南市にも植えられ、ジャカランダ群生林形成の最初の一歩となりました。

私たちはこの歴史あるジャカランダを挿し木によって複製し、未来へ残す活動も行っています。



私たちはジャカランダについて独自に研究を進め、優秀な個体の選別や接ぎ木方法の改良を行い、宮崎で育つ花付きの良い品種「ひなた」と「かなた」を作りました。作出した品種は、宮崎大学などさまざまな場所に植栽しています。また研究の一環として、宮崎県内でモニター事業を行い、耐寒性なども調査しています。ジャカランダについては、品種による特性など、まだ解明されていない部分が多くあります。私たちは今後も研究を進め、ジャカランダが宮崎の有力な修景木となることを目指しています。



宮崎大学に植栽したジャカランダ「かなた」

日本で最初に屋外へ植栽されたジャカランダ(熱帯果樹温室横)

イペー lpe

イペーは中南米原産の南アメリカを象徴する花木です。ブラジルの国花でもあり、庭園樹、街路樹、公園樹として広く利用されています。英名「Trumpet Tree」のとおり、ラッパ形の美しい花を木全体に咲かせます。宮崎では春に花を咲かせる黄金色の「キバナイペー」が代表的ですが、ピンク、赤、紫色の種類もあります。花が終わり葉をつけた頃には、細長い特徴的な種子を見ることができます。



宮崎のイペーは、昭和55年頃ブラジルの知人から種を贈られた個人が、阿波岐原地域で育て、県内各地へ苗を配ったことで広まったと言われています。

私たちは毎年、花の街づくりの一環として、ボランティアと種から育てたイペーの苗の配布を行っています。これまでに計 2,500 鉢のイペー苗を配布しました。モニター事業も行っており、今後も研究を進めていきます。

植物園のイペー

植物園には黄金色の「キバナイペー」と、ピンク色の「ピンクイペー」が植えられています。また、宮崎で最初に育てられたとされるイペーは現在植物園に移植されており、宮崎最古のイペーを実際に目にすることができます。

園内のイベント広場では、イペーの列が植物園の春を彩っています。青空に映える黄金色が何本も連なり、訪れた人を惹きつけています。





パラボラチヨ Palo borracho

日本の街中でほとんど見る機会のないパラボラチヨ。しかし、植物園には芝生広場とイベント広場の間にパラボラチヨの並木があります。並木道が作られるほどの本数がまとまって、しかも屋外に植えられていることは、実はとても珍しいことなんです。

パラボラチヨの特徴



パラボラチヨの花

植物園のパラボラチヨは、9月から10月頃に花を咲かせます。色は白とピンクの2種類があり、南国らしいエキゾチックな花です。

植物園では、どちらの色も見ることができるので、秋に訪れた際はぜひ見上げて探してみてください！

パラボラチヨのわた

別名である「トックリキワタ」の名の通り、パラボラチヨのはじけた種子の周りには多数の綿がついています。

5月頃になると、植物園の芝地には無数の白い綿が散らばります。とても触り心地のよいパラボラチヨの綿、原産地であるブラジルやアルゼンチンでは生活用品に利用されています。



パラボラチヨの幹

パラボラチヨはスペイン語で「酔っぱらいの木」という意味を持ちます。トックリ状に肥大した幹が酔っぱらいのお腹に見えることが由来の一つです。

そんなふっくらとふくらんだパラボラチヨの幹ですが、近づいてよく見てみると…？

実はたくさんの棘があります！触るとケガをしてしまうので、観察するときは少し離れてくださいね！



植物園のパラボラチヨ

植物園のパラボラチヨは、なんと種から育てられました。その種は、植物園が開設した翌年、昭和41年にブラジルの宮崎県人会から贈ってもらったものです。樹齢は今年で57年になります。

開設以降、長きにわたり植物園と共に過ごしてきた歴史あるパラボラチヨ。しかし、気候の影響などにより、樹勢は少しずつ弱くなってきています。私たちは並木道を再生すべく更新を検討するとともに、修景木としての可能性を考え、研究を進めていきます。

